

ともに チャレンジ!

～ 美しい「あ・や・が・わ」の進化 ～



あらかな文化 やすらぐ校風 がんばる心 わの精神

令和6年度 綾川中学校学校便り No. 3

2024年4月11日

ランチルーム給食が「完全復活」しました!

令和5年5月の新型コロナウイルスの2類移行を受け、綾川中学校ではコロナ禍以前の様々な取組をマイナーチェンジしながら復活させてきました。この営みを「完全復活の綾川中学校」というネーミングで、この学校便りやPTA新聞で発信してきたところです。

そんな中、復活できていなかった取組の一つに「員参加のランチルーム給食」がありました。昨年度は、1学期に3年生、2学期に2年生、3学期に1年生と、学期毎に学年別のランチルーム給食を実施していましたが、インフルエンザの拡大傾向が見られると教室給食に切り替えるなど臨機応変な対応もしてきました。

令和6年1月頃から感染症の状況をみながら、全校一斉のランチルーム給食の再開(復活)を模索していたところ、今回1年生が入学してきたタイミングで、4月10日(水)に、ついに3学年がそろった「全参加のランチルーム給食」を復活させることができました。もちろん、感染症等の流行が気になる状況になれば、今まで通り、教室給食に切り替えて対応する予定でもあります。しかしながら、全校生の約半数の250名強が一斉に配膳を行い、教職員を含めて約600名弱の者が一斉に食事をするという久しぶりに見る風景はやはり壮観でした。

さて、私の考えるランチルーム給食のよさは以下のとおりです。

- ・ 大勢での食事で賑わいが生まれ、より一層楽しく食事ができること
- ・ 座席は離れているものの、異学年の子どもたちが毎日同じ空間で食事をを行い、学校としての一体感を味わえること
- ・ 運搬や配膳中、教室や廊下に食材をこぼすことがなく、校舎内の美化を保ちやすいこと
- ・ ランチルームは給食以外で使用する機会が少なく、部屋の衛生を保ちやすいこと
- ・ 他の学級の配膳する様子が視覚的に見えるため、互いに刺激し合って学校全体として配膳に費やす時間が短くなり、食事をする時間が若干長くなること
- ・ 全校生が一堂に会しているため、食事前や食事後に子どもたちに伝えたいことが対面で一斉に伝えられること

本校の誇る施設であるランチルームでの給食を通して、異なる献立を毎日時間通りに安全に提供していただいている給食調理員の皆様への感謝の気持ちを持ち、仲間とともに楽しく給食をいただけることの幸せを実感しながら、子どもたちが心身健やかに成長することを願っています。



【全校生が一斉に食事をするランチルームでの給食風景】